

基本目標評価調書

基本目標	1 仕事を育て、仕事を創る	評価
総合戦略頁	P20～22	C

【1 基本目標の概要】

農林水産業では、6次産業化の推進、担い手の育成及び経営体の強化を図り1次産業の成長産業化を実現し、地域資源をいかした農林水産業の振興に取り組む（個別目標1）。

商工業の分野では、意欲ある事業者・企業・創業希望者を支援するため、金融支援に加え、人材確保や経営に関する学習の場を提供し、商工業の振興に取り組む（個別目標2）。

観光分野では、「さいきツーリズム戦略2019-2023」の一層の推進を図るとともに、訪日外国人の増加に対応し、インバウンド時代に沿った環境整備を行い、観光・ツーリズムの振興に取り組む（個別目標3）。これらの取組により、新規雇用・創業を支援する。

【2 基本目標における数値目標の評価結果】

数値目標	基準値	見込値	目標値	評価
市町村民税における納税義務者数	27,371人 (R1年度)	27,350人	27,551人 (R4年度)	D

【3 基本目標を構成する個別目標の評価結果】

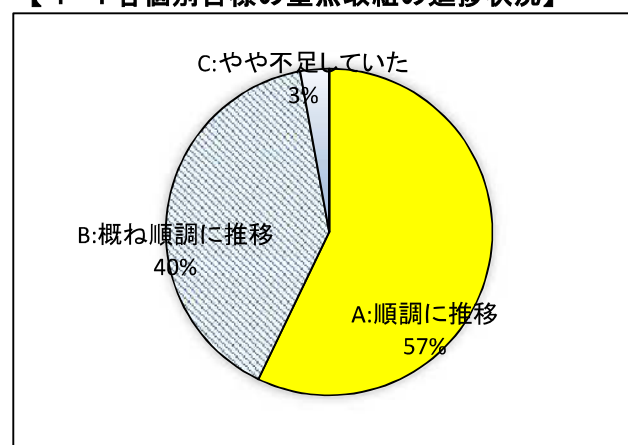
個別目標		重点取組評価					指標（KPI）評価					個別目標評価
		平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1	地域資源をいかした農林水産業の振興	A	8	6			A	3		1		A
2	商工業の振興	A	4	6	1		C		1	1	1	B
3	佐伯の強みをいかした観光・ツーリズムの振興	A	8	2			C			1		B
合計			20	14	1	0		3	1	3	1	

※評価の区分

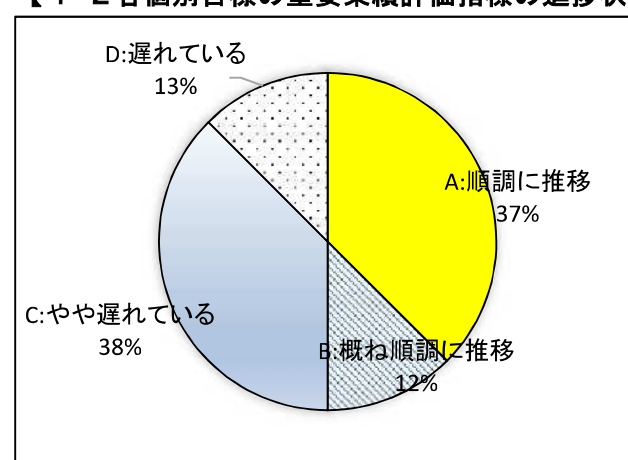
A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

関係部局	地域振興部、観光ブランド推進部、市民生活部、農林水産部
------	-----------------------------

【4-1 各個別目標の重点取組の進捗状況】



【4-2 各個別目標の重要業績評価指標の進捗状況】



【5 評価が「D：不足していた」となった重点取組】

個別目標	-	個別目標	-
重点取組	-	重点取組	-

【6 評価が「D：遅れている」となった指標】

個別目標	-		個別目標	2 商工業の振興			
指標名	市町村民税における納税義務者数		指標名	市内高等学校卒業者に占める市内就職者の割合			
見込値	27,350人	目標値	27,551人	見込値	50.0%	目標値	62.1%
≪「遅れている」となった理由≫ 佐伯市の人口は、令和元年から令和3年の間、毎年1,100人程度、令和4年12月末おいては年間1,200人を超える減少となっている。 人口減少と併せて、令和2年から感染拡大した新型コロナウイルス感染症による影響により、納税義務者数についても同様に減少し、目標値を下回ったものと思われる。				≪「遅れている」となった理由≫ 市内にある高等学校3校のうち、佐伯鶴城高校の卒業者は大学、専門学校への進学率が高い。近年は、他2校の卒業者も大学、専門学校への進学希望者が多くなっており、高校卒業後の就職者数が減少している。 高校卒業後の就職希望者のうち、県外や市外へ就職する割合も増加しており、市内企業に就職する卒業者は減少している。 給与面及び就職希望業種等の有無により、市内企業への就職率低下が考えられる。			

基本目標評価調査

基本目標	2 佐伯市への人の流れを促す	評価
総合戦略頁	P23～24	D

【1 基本目標の概要】

佐伯市への人の流れを促すためには、佐伯の魅力の発信、きめ細やかな受入れ体制の整備と、佐伯市に愛着を持つ人を市内外に増やす必要がある。移住希望者の多様なニーズに対応するため、良好な移住環境に取り組む。そして、Uターンを望む若い世代を始め、各世代に対応した情報発信を行うとともに、地域産業に対する学習機会の創出により、佐伯市への回帰を促す（個別目標1）。

また、地域特性をいかした観光産業やふるさと納税を推進することで、関係人口の創出につなげ、佐伯市に愛着を持つ人を増やすよう取り組む（個別目標2）。

これらの取組により、施策による移住者年間200人を達成するよう努める。

【2 基本目標における数値目標の評価結果】

数値目標	基準値	見込値	目標値	評価
施策による移住者数	95人／年 (H28年度)	110人／年	200人／年 (R4年度)	D

【3 基本目標を構成する個別目標の評価結果】

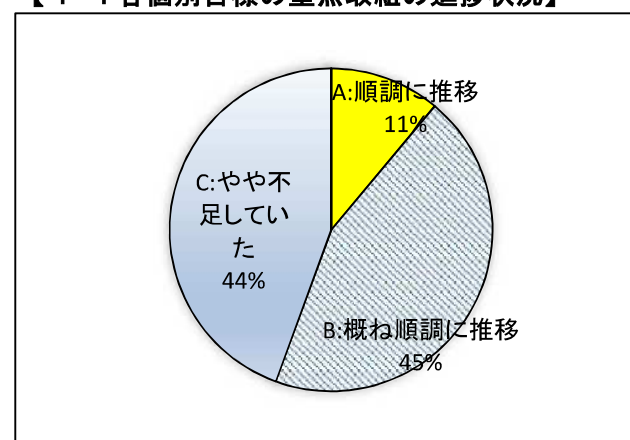
個別目標		重点取組評価					指標（KPI）評価					個別目標評価
		平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1	佐伯市への回帰を促す	B		3	2		D				2	C
2	佐伯のコアなファンづくり	B	1	1	2		A	1	1			B
	合計		1	4	4	0		1	1	0	2	

※評価の区分

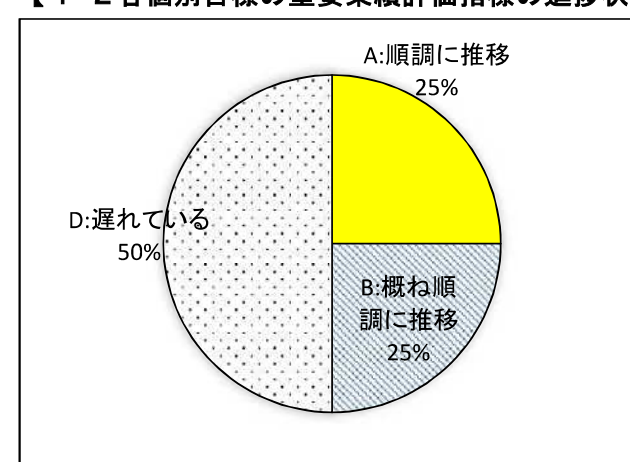
A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

関係部局	総合政策部、地域振興部、観光ブランド推進部
------	-----------------------

【4-1 各個別目標の重点取組の進捗状況】



【4-2 各個別目標の重要業績評価指標の進捗状況】



【5 評価が「D：不足していた」となった重点取組】

個別目標	－	個別目標	－
重点取組	－	重点取組	－

【6 評価が「D：遅れている」となった指標】

個別目標	1 佐伯市への回帰を促す			個別目標	1 佐伯市への回帰を促す		
指標名	施策による移住者数			指標名	市内高等学校卒業者に占める市内就職者の割合		
見込値	110人／年	目標値	200人／年	見込値	50.0%	目標値	62.1%
≪「遅れている」となった理由≫ 計画開始初年度（平成30年度）の移住者数は122名となり順調な推移をみせたが、令和元年度の後期（1～3月）から新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まり、令和2年度は基準値を大幅に下回った。令和3年度は、感染症の落ち着きとコロナ禍における生活スタイルの定着、地方への移住意識が全国的に高まったこともあり、移住者数が基準値までには回復した。令和4年度は移住推進の関連事業も予定通り実施できれば、100名を超える移住者数が見込まれる。しかしながら、コロナ禍であったとしても、目標値には大幅に届かず、移住施策の見直しが必要である。				≪「遅れている」となった理由≫ 市内にある高等学校3校のうち、佐伯鶴城高校の卒業者は大学、専門学校への進学率が高い。近年は、他2校の卒業者も大学、専門学校への進学希望者が多くなっており、高校卒業後の就職者数が減少している。高校卒業後の就職希望者のうち、県外や市外へ就職する割合も増加しており、市内企業に就職する卒業者は減少している。 給与面及び就職希望業種等の有無により、市内企業への就職率低下が考えられる。			

基本目標評価調書

基本目標	3 結婚、出産・子育ての希望をかなえる	評価
総合戦略頁	P25～26	D

【1 基本目標の概要】

結婚の希望をかなえ、「いつも子どもが まんなか」の理念の下、子どもを安心して産み育てる環境づくりに取り組み、支援サービスの情報発信を行う（個別目標1）。
また、妊娠・出産・子育て支援を実現するため、地域全体で子育て・子育てを支える環境づくりに取り組む（個別目標2）。
これらの取組により、子育て世代が希望する子どもの数と現実の子どもの数が一致するよう努める。

【2 基本目標における数値目標の評価結果】

数値目標	基準値	見込値	目標値	評価
予定子ども数／理想子ども数 （県実施調査実績）	0.86 （H30年度）	0.94	1.0 （R4年度）	D
出生数	401人／年 （H29年）	300人／年	400人／年 （R4年）	D

【3 基本目標を構成する個別目標の評価結果】

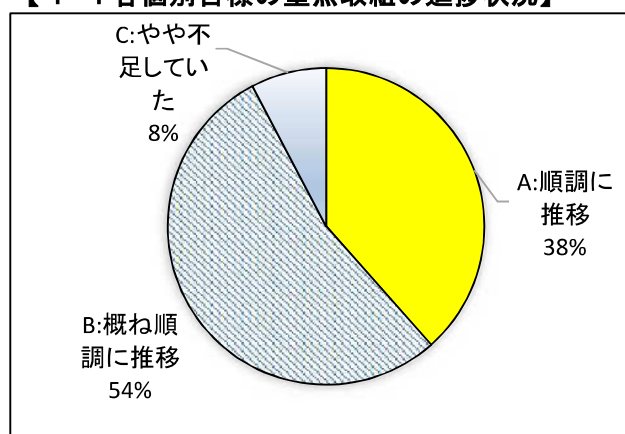
個別目標		重点取組評価					指標（KPI）評価					個別目標 評価
		平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1	結婚の希望をかなえ、子どもを安心して産み育てる環境づくり	A	3	2			D				1	C
2	地域全体で子育て・子育てを支える環境づくり	B	2	5	1		B	1	1	1		B
合計			5	7	1	0		1	1	1	1	

※評価の区分

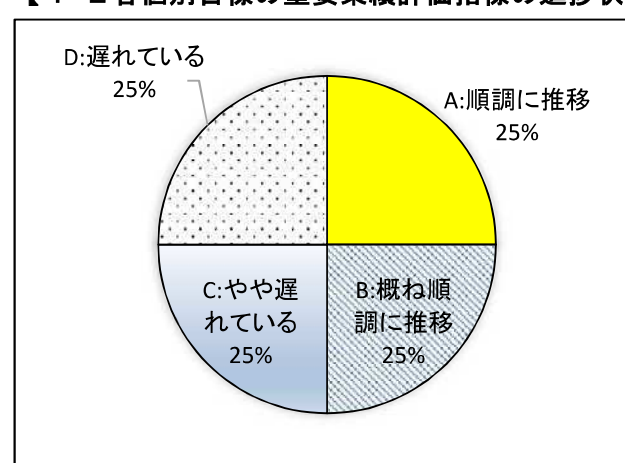
A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている （やや不足していた）	D	遅れている （不足していた）
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

関係部局	福祉保健部、教育委員会
------	-------------

【4-1 各個別目標の重点取組の進捗状況】



【4-2 各個別目標の重要業績評価指標の進捗状況】



【5 評価が「D：不足していた」となった重点取組】

個別目標	-	個別目標	-
重点取組	-	重点取組	-

【6 評価が「D：遅れている」となった指標】

個別目標	－		個別目標	－			
指標名	予定子ども数／理想子ども数（県実施調査実績）		指標名	出生数			
見込値	0.94	目標値	1.0	見込値	300人／年	目標値	400人／年
《「遅れている」となった理由》 R2年度2.40/2.72=0.88、R3年度2.51/2.77=0.91と増加しているが前年度目標値とR4年度目標値の中間未満のため。 理想よりも予定の方が少ない主な理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が66.5%と最も多く増加傾向にある。次いで「自分の仕事(勤めや家業)が忙しいから」26.1%、「高年齢で産むのはいやだから」24.4%となっている。理想とする子どもの数を実現するために必要なことは「経済的な支援」が79.4%と最も多く増加傾向にあり、次いで「配偶者との家事・育児の役割分担」43.5%、「保育所の充実をはじめとした子どもを預かる事業の拡充」32.1%となっている。【子ども・子育て県民意識調査報告書より】 以上のことから、出産を考えるうえで、経済的な課題や子育て環境を要因に躊躇していることから、安心して子育てできる環境整備の充実を、全庁的な課題ととらえ横断的な取組みとして行う必要がある。				《「遅れている」となった理由》 出生数はR2年度325人、R3年度300人(見込み R4年2月末時点276人)でいずれも基準値を下回っているため。【大分県の人口推計（月報:市町村別人口）より】 要因としては、比較的に出産割合の高い25～34歳の女性の人口が、減少傾向にあるためと考えられる。また、理想とする子どもの数を実現するために必要なことは(1)に次いで、「男女がともに家事・育児を担うことへの職場の理解、環境整備の充実」28.6%や「出産育児のための休業・短時間勤務制度の取得促進」22.1%、「小児医療体制整備など子どもへの健康支援」13.7%とある。 以上のことから、出生割合の高い25～34歳の女性の人口減少対策と妊娠・子育てへとつながる環境整備の充実を、全庁的な課題ととらえ横断的な取組みとして行う必要がある。			

個別目標	1 結婚の希望をかなえ、子どもを安心して産み育てる環境づくり			個別目標	-		
指標名	この地域で子育てをしたいと思う親の割合（3歳児健診アンケート）			指標名	-		
見込値	95.6%	目標値	98.0%	見込値		目標値	
《「遅れている」となった理由》 この地域で子育てをしたいと思う親の割合（3歳児健診のアンケート）は、H30年度以降95%前後（H30 96.3% R1 97.2% R2 95.2% R3 94.8%）を推移し、R4年度目標値98%に達していないため。 要因の一つとしては、妊娠出産期や子育て期でのきめ細やかな支援が不足していることが考えられる。 このことから、安心して妊娠・出産・育児ができるよう様々な機会を通じて、より相談しやすい体制の強化を図り、妊娠期からの切れ目のない支援と母子保健事業の充実を今後も図っていく必要がある。				《「遅れている」となった理由》			

基本目標評価調書

基本目標	4 街・浦・里が支え合い、高めあう	評価
総合戦略頁	P27～29	C

【1 基本目標の概要】

持続可能な暮らしを実現するため、まちづくりの根幹である「ひと」づくりに取り組む（個別目標1）。人口減少・少子高齢化・過疎化を踏まえ、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちづくりに取り組む（個別目標2）。地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進める（個別目標3）。これらの取組により、持続可能なまちづくりを目指す。

【2 基本目標における数値目標の評価結果】

数値目標	基準値	見込値	目標値	評価
街・浦・里のまちづくり支援件数	75件／年 (H30年度)	75件／年	100件／年 (R4年度)	D

【3 基本目標を構成する個別目標の評価結果】

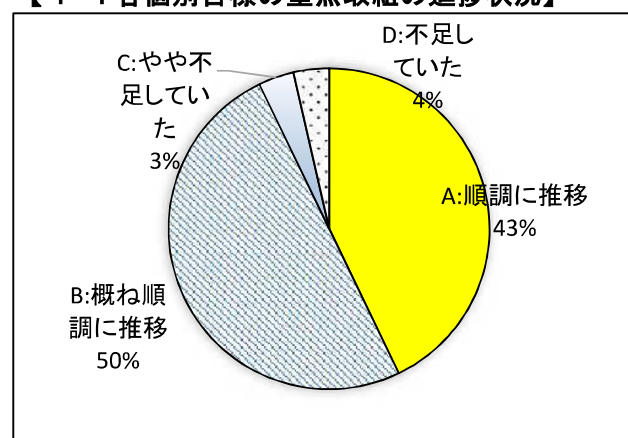
個別目標		重点取組評価					指標（KPI）評価					個別目標評価
		平均	A	B	C	D	平均	A	B	C	D	
1	街・浦・里を支える人の育成	B	3	2	1	1	B	2			1	B
2	住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちをつくる	A	7	3			A	4				A
3	地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進める	B	2	9			C	1			1	B
合計			12	14	1	1		7	0	0	2	

※評価の区分

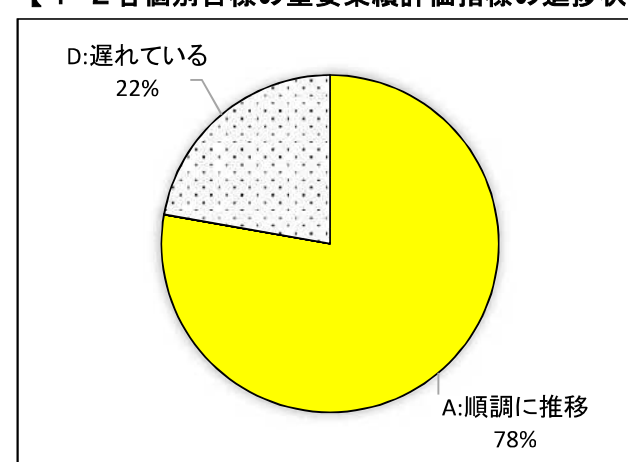
A	順調	B	概ね順調	C	やや遅れている (やや不足していた)	D	遅れている (不足していた)
---	----	---	------	---	-----------------------	---	-------------------

関係部局	地域振興部、福祉保健部、防災局、教育委員会
------	-----------------------

【4-1 各個別目標の重点取組の進捗状況】



【4-2 各個別目標の重要業績評価指標の進捗状況】



【5 評価が「D：不足していた」となった重点取組】

個別目標	1 街・浦・里を支える人の育成	個別目標	-
重点取組	まちづくり団体の充実	重点取組	-
≪「不足している」となった理由≫ まちづくり交流倶楽部の登録団体は、増加傾向にあったが、初期に登録した団体の中には活動を停止していた団体も見受けられ、活動拠点の移転にあたり意思確認を行ったところ33団体に留まった。施設利用の案内等の情報提供を行ったが新規登録数は思うように増えなかった。		≪「不足している」となった理由≫	

【6 評価が「D：遅れている」となった指標】

個別目標	地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進める			個別目標	1 街・浦・里を支える人の育成		
指標名	街・浦・里のまちづくり支援件数			指標名	まちづくり交流倶楽部の登録団体数（総数）		
見込値	75件／年	目標値	100件／年	見込値	43団体	目標値	130団体
≪「遅れている」となった理由≫ 地域活力の向上や、地域課題に取り組む事業、地域コミュニティの強化につながる事業などに対して佐伯創生推進総合対策事業による支援を行ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、R3年度の実績は47件／年に止まるなど大きく影響を受けた。4年度は75件／年の支援件数を見込んでいるが、目標値には届かない見通しである。 「街・浦・里が支え合い、高め合う」ため、事業の見直しを行い、持続可能なまちづくりに引き続き取り組む必要がある。				≪「遅れている」となった理由≫ まちづくり交流倶楽部の団体の中には、活動を停止している団体もあり、さいき城山桜ホールに移転の際、登録団体が半数以下に減少したことや活動拠点が変更となったこと、交流倶楽部の活動目的などが、登録団体の活動にうまく繋がっていないことが考えられる。			